「主から目を離さない」マタイ１４：２２－３３　　１８・１２・９

Ⅰ　「主から目を離さない」という信仰生活で最も大切な御言葉を実行する為に、まず、大切で、必要な事がある。それは、主イエスは、どのようなお方かを深く知り続ける事である。

１．三位一体の第２位格の神である主イエスは、御父と御聖霊と共に、天と地のすべてを創造された偉大なお方。

「この方（神である主イエス）は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方（神である主イエス）によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった」

（ヨハネ１：２、３）。

２．神であるイエスは、造られた世界のすべてを支配し、すべての権威をもって保っておられる。

「万物は御子によって造られ…万物は御子にあって成り立っています」（コロサイ１：１６、１７）。

「御子は…その力あるみことばによって万物を保っておられます」（ヘブル１：３）。

「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています」（マタイ２８：１８）。

ですから、本日出て来る、２４節の「向かい風」も「湖」も３０節の「強風」もすべて主イエスは、支配しておられる。「風はやんだ」：３２も。すべてのことを御手に握っておられる。湖を造られた、すべての創造者なる神であるイエス様にとり、「イエスが湖の上を歩いておられる」：２６のは、難しい事ではなかった。

私達の人生にも、私たちの教会にも、「向かい風」や「強風」の時、牧師交代の時がある。

「イエスは弟子たちを舟に乗りこませて…向こう岸に向かわせて」：２２。

主は、私たちの成長のために、試練を与えられる。

しかし、大丈夫である。

すべての創造者、支配者である主イエスは、いつでも私達のそばにおられ、私達にも語り掛けられる。

「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」：２７。

沈みかける私達をつかみ、助けて下さる。３０－３２。

３．そんなに偉大な神であるイエスは、私達の救い主として、私達の罪の身代わりに死ぬ為にクリスマスに、人間となり生まれて下さった。人として、痛み、苦しみ、あざけられる事を体験して、私達の痛みを理解する救い主となって下さった。

４．自分が弱く罪深く、駄目な人間と認める人を受け入れて下さるイエス様。

５．神であるのに人となられた主イエスは、私達に模範を残されている。

それは、人々を助けたり、弟子達や人々との交わりを大切にされる事と、一人になり神との交わりの祈りを大切にされるバランスである。

「群衆を解散させてから、イエスは祈るために一人で山に登られた。夕方になっても一人でそこにおられた」：２３。

Ⅱ　ペテロが沈みかけた原因

イエスは「来なさい」と言われた。そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスの方に行った。

ところが「強風を見て」怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。：２９，３０。

イエス様から目を離して「強風を見て」怖くなり、沈みかけた。これは、私達の人生にも、私たちの教会にも当てはまる。

私達が、心の目、信仰の目で、イエス様から目を離して、問題、困難、変化だけを見つめると、問題、困難、変化が実際より、何倍も大きく感じられ、怖くなり、心が沈み、失望、絶望してしまう。

非常に高いつり橋を渡る時、向こうのゴールから目を離して、下の岩場を見ると、恐怖心が増し、足がすくみ、動けなくなる。

信仰生活も同じである。すべての創造者、支配者である主から信仰の目を離すと心が沈む。

Ⅲ　個人の人生で、教会全体で、試練や大きな変化の中にある時、どうすれば良いのか？聖書の答えは？

１.「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです（私達の罪の為に十字架で死に、三日目に復活し、天に帰られ、今は、日々、父なる神の右の座で、私達の為に、執り成しの祈りをしておられる。遍在の神であられる主は、地上にもおられ、いつも私達と共におられ、職場、学校、家庭でも私たちと共におられ、私達の心にも、試練の中にも共におられる）」ヘブル１２：２。

教会員と今の牧会者と主キリストが立てて下さる新しい牧会者が、共に同じ主を見上げることが出来るのは幸いである。主は、主の教会である当教会を守り導いて下さっている。この１８年間。これからも！

「あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成してくださる」ピリピ１：６

２．主イエスから目を離さないとは、いつも主を思い、どんな中にも主の御支配、御臨在を認めること。

自分の悟り、考え、視点ではなく、主の視点で物事を見、考え、その物事の中におられる主を認める事。

「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる」箴言３：５，６。

３．主から目を離さないとは、主のみことばを見つめ、口ずさむ、思い巡らすこと。

「幸いなことよ…主のおしえを喜びとし　昼も夜も　そのおしえを口ずさむ（思い巡らす）人」

詩篇１：１，２。

４．主から目を離さないとは、主の御言葉を心に蓄える、覚える、暗誦し味わう事。

「私はあなたのみことばを心に蓄えます。…私は　あなたの戒めに思いを潜め　あなたの道（みことばが示す道）に私の目を留めます」詩篇１１９：１１，１５。

５．主から目を離さないとは、みことばを書き記し、見つめる事。

見つめるみことばは、生きていて、私達に語り掛け、私達を励まし、戒め、導く。

「私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。これを（神のみことば）あなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家に座っているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。これをしるしとして自分の手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい」申命記６：６－９。

主からすぐに目をそらし易い私達にとり、いつも目にする所に、御言葉を記し貼っておく時、その御言葉は、私達の信仰の目は、主に向けられる。

主を思い出し、主を見つめ、主を見上げる時、主が、困難な状況も支配し、マイナスをプラスに変え、益（私達の成長、人の考えと違う主のご計画の前進）として下さると信頼できて希望が生まれる！